

野々市市公共施設等総合管理計画【改定版】（概要）

1. はじめに

（1）改定の背景と目的

- 本市では、経営的な視点に基づき、公共施設の運用効率を高め、公共施設を次世代へより良質な資産として引き継ぐために、「野々市市公共施設等総合管理計画（以下「本計画」という。）」を2017（平成29）年3月に策定し、本市の公共施設等の現状と課題等を踏まえた維持管理に関する基本的な考え方や取り組みの方向性を定めました。
- 本計画の策定後には、公共施設等の長寿命化を推進し、維持管理や更新に係る費用の縮減を図るため、個別施設毎の具体的な方向性を示した「野々市市公共施設等個別施設計画」をはじめ、公営住宅や道路、橋梁等の長寿命化計画を策定・改定し、施設毎に効果的な管理を推進しているところです。
- 国は不断の見直しを実施し順次充実させていくことが適当であるとの考えを示しており、新たに記載すべき事項などを示し、2021（令和3）年度中に計画の見直しを行うよう各地方公共団体に要請しています。これを受けて、本市では、本計画を一部改定し、公共施設等における適正管理の更なる推進に取り組むこととします。

（2）計画の位置づけ

- 本計画は、公共施設等の管理に関する基本的な考え方や取り組みの方向性を定めるものであり、既に策定されている個別施設計画（長寿命化計画）の上位に位置づけられます。

（3）計画期間

- 2017（平成29）年度から2026（令和8）年度までの10年間

（4）対象範囲

- 本計画で対象とする公共施設等は、市庁舎、学校、市営住宅など市が保有する建築物（公共建築物、10類型）と道路、河川、上下水道など都市生活の基盤となる施設（インフラ施設、6類型）を対象とします。

2. 人口の推移と将来予測

- 2020（令和2）年に実施された国勢調査では、本市の人口は57,238人となっています。
- 「第2期ののいち創生長期ビジョン（2020（令和2）年3月）」による人口の将来展望では、創生に向けた施策を実施することにより、将来人口は2055（令和37）年まで“増加し続ける”ことが推計されています。

3. 財政状況 [2020（令和2）年度]

- 歳入決算額は255.4億円であり、そのうち「一般財源」は全体の42.5%を占めています。
- 歳出決算額は251.8億円であり、そのうち「義務的経費」は全体の39.4%を占めています。

4. 公共施設等の現状 [2020（令和2）年4月1日現在]

（1）公共建築物

- 本市が保有する公共建築物は、69施設で総棟数95棟、総延床面積は135,342㎡となっています。
- 一般的に経年劣化により大規模な改修工事が必要と言われている建築後30年以上を経過した施設は全体の54.3%（73,505㎡）を占めており、10年後には61.2%となることが予想され、今後、多くの施設が大規模な改修や建替えの時期を迎えます。
- 公共建築物のうち、92.9%が耐震性能を有しています。
- 2016年以降に新規整備した施設は、放課後児童クラブ、図書館、中央公民館等です。

（2）インフラ施設

- インフラ施設全体では大きな変化はありませんが、道路や公園、上下水道の管渠及び施設は微増しています。
- 全橋梁（234橋）のうち、耐用年数60年を超過している橋梁は1橋ですが、今後は耐用年数を迎える橋梁が増加します。
- 上水道の管渠総延長（約329km）のうち、耐用年数40年を超過している管渠は74.9km（約23%）です。今後も耐用年数を迎える管渠が増加します。
- 下水道の管渠総延長（約277km）のうち、耐用年数40年を超過している管渠はありませんが、近い将来には耐用年数を迎える管渠が増加します。

5. 基本方針

- 公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するため、下記に5つの基本方針を掲げます。

■計画的な維持管理による機能保全と長寿命化の推進

- 維持管理については、日常点検と定期点検を行い、事後保全型から予防保全型へと転換し、更新時期を迎える施設については、市民ニーズや利用実態、建物の性能等を踏まえて計画的に施設更新を進めます。

■実情に見合った施設の総量と配置の適正化

- 将来にわたり公共サービスを継続し、人口や財政規模に見合った施設総量の最適化を図ります。
- 多機能施設重視に転換し、統廃合、複合化等に取り組むとともに、地域の実情や将来のまちづくりを見据えて、効果的かつ効率的に、施設配置の見直しを進めます。

■市民の安全・安心な生活の確保

- 公共建築物については、「野々市市地域防災計画」において防災拠点や災害時の避難施設となっている施設から、優先して安全性を確保するための耐震化を推進し、インフラ施設は、緊急輸送道路や防災拠点周辺等の重要度の高い箇所から耐震化を推進します。

■公民連携によるまちづくりの推進

- 庁内研修等を通じて、公共施設を取り巻く課題解決に向けた職員の意識醸成、施設の維持管理や改修・更新に関するノウハウの蓄積に向けた取り組みを実施します。
- 指定管理者制度をはじめとするPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）を推進するとともに、地域住民・企業と連携した道路・公園等の清掃活動に努めます。

■総合的な公共施設マネジメントの実施

- 市全体として、全庁横断的な視点から資産経営を行うための組織を構築するとともに、公共施設等に関する情報を一元的に掌握・管理して、総合的なマネジメントを推進します。
- 施設の改修・更新の問題への対応は長期にわたる取り組みになることから、PDCA（計画・実施・検証・改善）サイクルによる進捗管理や見直しを行い、継続的な取り組みを行います。

安全・安心で持続可能なまちを次世代に引き継ぐ

6. 個別施設計画等に基づく対策効果額

(1) 個別施設計画等の策定状況とその効果額

・野々市市の施設維持管理に関する計画は、以下のとおりとなっています。

施設分類	計画の名称	今後10年間の将来更新費（億円）		
		従来型	長寿命化型	長寿命化による効果額
公共建築物	野々市市公共施設等個別施設計画 2021（令和3）年度策定	—	55.9	—
公営住宅	野々市市公営住宅等長寿命化計画（改訂版） 2020（令和2）年度策定	1.1	0.3	0.8
道路	野々市市道路舗装個別施設計画 2019（令和元）年度策定	14.7	—	—
	門型標識長寿命化修繕計画 2020（令和2）年度策定			
橋梁	野々市市橋梁長寿命化修繕計画 2020（令和2）年度改定	2.2	1.6	0.6
公園	野々市市公園長寿命化計画 2012（平成24）年度策定	6.2	5.4	0.8
上水道	野々市市水道事業ビジョン 2020（令和2）年度策定	63.5	50.4	13.1
下水道	排水管更新・耐震化基本計画（配水本管） 2018（平成30）年度策定	2.1	1.0	1.1
	排水管更新・耐震化基本計画（配水枝管） 2018（平成30）年度策定			
	野々市市水道事業ビジョン 2020（令和2）年度策定			
	マンホールポンプ場ストックマネジメント計画 2021（令和3）年度策定			

(2) 個別施設計画の方針を踏まえた事業計画

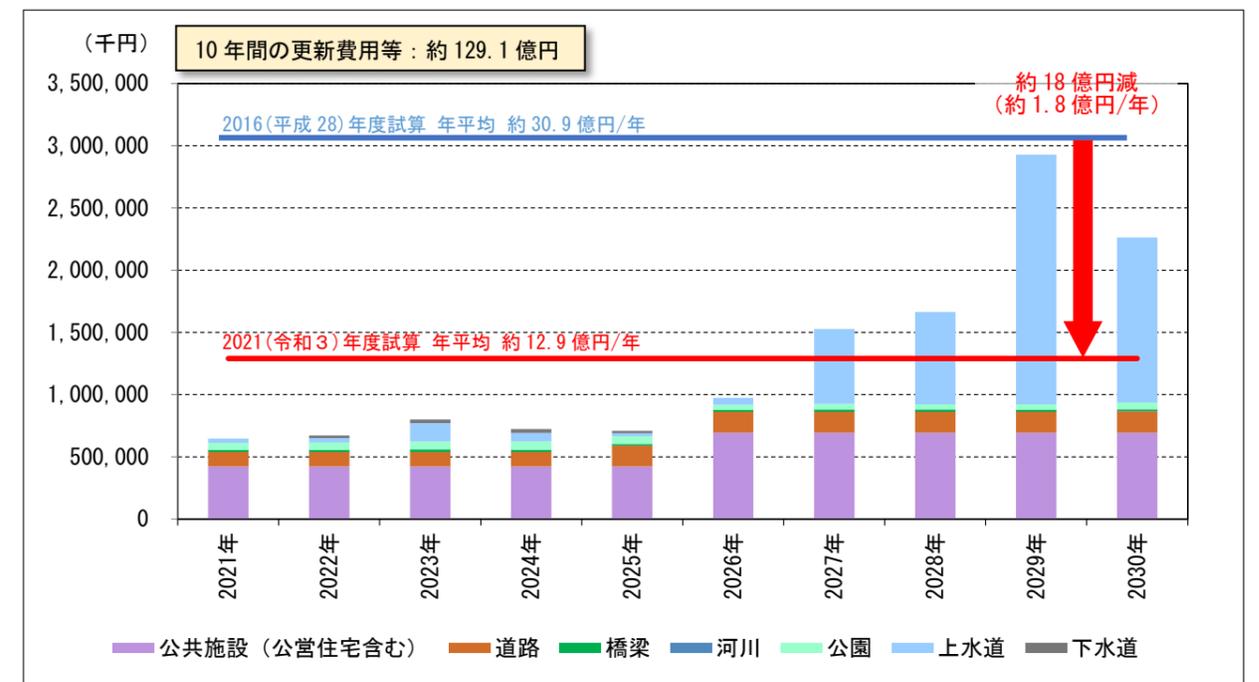
施設方針	主要内容
新規整備	<p>＜新図書館「学びの杜ののいちカレード」整備＞</p>  

施設方針	主要内容
新規整備	<p>＜新中央公民館「にぎわいの里ののいちカミーノ」整備＞</p>  

(3) 公共施設全体の効果額

- ・これまでに策定した個別施設計画や長寿命化計画に示す長寿命化型の将来更新費（以降、「2021（令和3）年度試算額」という。）を整理すると、今後10年間（2021（令和3）～2030（令和12）年）で総額約129.1億円と試算され、年平均で約12.9億円が必要となる見込みです。
- ・2021（令和3）年度試算と2016（平成28）年度に試算した将来更新費を比べると年平均で約18.0億円の削減が見込まれます。しかしながら、2016（平成28）年から2020（令和2）年の過去4年間の更新費用等（約12.4億円/年）と同等の費用が必要となることが見込まれることから、個別施設計画や長寿命化計画に基づいた維持管理を推進することが重要です。

＜長寿命化の考え方を反映した効果額（公共施設全体）＞



※全ての公共施設は2020（令和2）年度末の施設・整備数をもとに将来更新費を試算しています